

産業観光
まちの魅力

熊野駅伝大会の今後は

全町民のための駅伝開催を目指し、関係機関と協議・連携を図りつつ検討する。

【Q1】旧コースから現行の西部方面のみを走るコースに変更になった経緯は。

【A1】平成27年までは町内一円をめぐるコースで実施されたが、主要地方道矢野安浦線や県道瀬野呉線における車両等の通行を一時的にストップさせることから、相当の渋滞を引き起こし、道路利用者から多くの苦情が寄せられた。交通規制の関係で協議を行ってある警察も今後はこのような規制は出来ないかと判断した結果、現在に至る。

【Q2】全町民のイベントとして成立していないのではないか。

【A2】町の中央部や東部地域の方の中には、熊野



▲昨年の熊野駅伝大会ゴールの様子

駅伝大会で地元の子どもの応援や、選手のことなどがなくなり、寂しくなったという声もあった。今後の実施に際し、改めて警察と協議するとともに、町民全体のイベントとしてのコース設定ができないか、あるいは別の方法による開催ができないか等、実行委員会をはじめとした関係機関とも連携を図り、検討する。

農業

安心安全

大原ハイツの避難所と町内各所の一時避難所設置は

今後の災害に備えた取り組みや商業施設と連携し一時避難所設置に努める。

【Q1】激甚災害となった大原ハイツに、人命を守るシェルターといった即時一時避難所が必要ではないか。

【A1】土石流の発生が非常に高まっている状態では、身を守るシェルターでの一時避難は有効なものであると考えている。しかし、人命を守る上で最も効果があるのは、災害の発生が著しく高まる前の段階で危険な区域からいち早く避難することと考えており、避難勧告が出た時点で、速やかに町民体育館等の一時避難場所や土砂災害警戒区域外の安全なところに避難してもらうことを優先して取り組みたいと考えている。

【Q2】緊急時の民間商業施設との連携が必要ではないか。

【A2】7月の災害でも町内各地で土石流が発生し、多くの方が避難する必要がある状況になり得ることから、身近な場所での一時避難場所は必要であり、商業施設の駐車場など大勢の方が一時避難可能な民間施設をお借りしての避難者受け入れは非常に有益である。現在、避難に必要な物資の調達については、多くの企業と災害時協定を締結しているところだが、今後、避難可能な駐車場を持つ商業施設に対して災害時協定を協議し、一時避難場所の確保に努めたい。



【Q1】町民がおられて、熊野町は成り立っている。先の豪雨では、尊い12名の命が失われた。どのような状況であったか。

【A1】自宅が7名、自宅から避難されようとした方が2名、不明が3名である。

【Q2】地球温暖化による豪雨が証明されつつあるが、災害死を出さないための地域防災計画の見直しの進捗状況は。また雨量計、防災カメラなどの取り組みは次期計画に盛り込まれるのか。

【A2】地域防災計画は本年度中に見直しを行い、来年度に認定を受けた。雨量計については現在試験的に設置して

いる大原ハイツに加え、全町的な設置を考えている。防災カメラなどについては今後検討していきたい。

【Q3】百年先を見据え、減災型コンパクトシティづくりが必要と考えるが。

【A3】熊野町は現状でも一定のコンパクトシティと考えている。更なる効率的な行政運営の視点から総合計画づくりにあたっていく。



▲大原ハイツに設置された献花台

農業

猪対策は捕獲しかない

現在の対策に加え、より被害軽減に資する施策を地域住民の方々と連携して研究を行うなど、新たな取り組みを展開したい。

【Q1】イノシシ被害の苦情は相当なもので、「町は何も手を打たないのか」と怒りが充満している。町としての取り組みを聞きたい。

【A1】捕獲については、11月末までの実績は144頭、前年同月125頭、平成28年同月は87頭であった。新たな取り組みとして、ワーキングチームを結成、モデル圃場に電気柵を設置して農作物を保護することが出来たため、町のホームページ等でPRしていく。また、今年度の捕獲報奨金はイノシシ1頭当たり3千円で、160頭分を予算計上しているが、本定例会において40頭分の補正予算を計上している。

【Q2】とにかく1匹残らず捕獲してほしい。報奨

【A3】補助要件については比較的小規模な農家が多いので、年度内には要件を緩和するよう考えている。

【A2】金は熊野町3千円、東広島市7千円、江田島市4千円とバラツキがある。駆除は大変な作業であり、駆除班の処遇体制を充実させてほしい。

【A3】電気柵、ワイヤーメッシュを共同設置の場合、条件を改善してほしい。



荒瀬 穂積 議員

平成30年7月豪雨災害死の状況は

【A】(町長) 自宅が7名、避難中が2名、不明が3名である。